

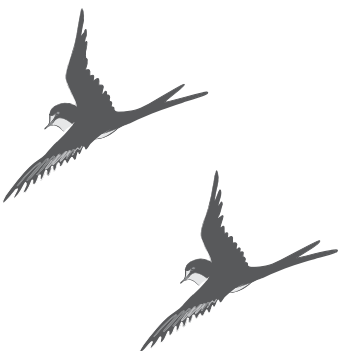


季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第十号〕

立夏りっか

五月六日



## 六方拝と植木等さん

薰風香る五月は、また早苗月とも呼ばれます。五十鈴川の流域の田植えは、かつては神宮神田の御田植初め式を待って始まりましたが、今では神田がしんがり(最後)。早苗が揺れる田が広がっています。

先日、伊勢にゆかりのある俳優の植木等さんの訃報が届きました。植木さんは、神宮神田の隣にある四郷小学校へ三年時に宮川村から転校し、昭和十四年に卒業しています。植木さんの同級生の方に伺うと、「修学旅行で行った大阪の宿で、よその学校の生徒をかまっけていて、翌日は声をからしていたことを覚えています」。当時から明るい性格で、おもしろい子どもだったようです。

四郷小学校の百周年記念誌(昭和六十三年発行)には、植木さんの記念講演の要旨がまとめてありました。植木さんは母校の後輩に、釈迦しよかの教えの一つ、六方ろっぽう拝を話されています。

六方拝とは、東西南北の四方と天地に感謝し、六方を拝むというもの。東を拝む時には、両親や自分の先祖に対して、南を拝む時には人の道を教えてくれた師匠や先生に、そして西は妻や夫などの連れ合い、子ども、縁者、北は友人、知己、知り合いですべての人に今日あることを感謝するのです。天地に拝むとは、太陽、月、水、空気など大自然の恵みすべてに対して感謝するということです。「植木は何を言っていたんだ？ 六方拝を思い出して下さい」と講演をしめくくっています。

神田の裏山はシイの黄緑色の新緑にあふれ、生命力みなぎるこの季節。  
“六方に感謝する”、植木さんの言葉がいつそう深く心にしみ入ります。

文 千種清美

